

平成22年度 第2回 明舞まちづくり委員会 報告

日時 平成23年3月3日18時～20時（於：明舞センター松が丘ビル3階大会議室）
事務局 兵庫県県土整備部住宅建築局住宅政策課

明舞団地の再生について情報交換や意見交換を行う「明舞まちづくり委員会」の、今年度第2回の会合を開催しました。（参加者48名）

リーディングプロジェクトの進捗状況について

リーディングプロジェクトを進める、各事業者からの説明が行われました。まず、県営松が丘住宅建築工事の進捗状況については、全6期のうち、第1期103戸は今月中、第2期107戸は来年3月に完成する予定との説明がありました。次に、明舞センター地区再生事業の進捗状況の説明がありました。「公社住宅ゾーン」に建設している公社賃貸住宅は先月完成し、現在入居者募集を行っているとのことでした。昨年11月から公募を開始した「商業及び住民交流ゾーン」では、2月1日の提案期日には1グループからの応募があったものの、応募要項に示した募集条件に適合せず、事業予定者として決定することができなかったこと、引き続き公募条件を変更して3月1日より再募集していること等が報告されました。再募集が順調に進めば、6月には事業予定者が決定する見込みであるとのことでした。また、明舞中央病院横の「高齢者ホームゾーン」の工事については住宅部分は5月末入居、高齢者福祉施設部分は4月18日から供用開始予定であることが説明されました。現在、住宅部分は概ね6割の成約、特別養護老人ホームは定員を上回る180人の申し込みがあるとの報告がありました。参加者からは、「高齢者ホームゾーン」の北東の角に配置される地域交流施設について、どのようなものになるのか期待しているとの声がありました。

世界団地博覧会 / 明舞まちなカラボの活動報告

（特）神戸まちづくり研究所から、同研究所や地域団体、県立大学と協働して進めた、「世界団地博覧会」の報告と、県立大からは、「明舞まちなカラボ」の今年度の活動に関する報告がありました。世界団地博覧会には、団地内外から多くの人々が訪れ大いに盛り上がったものの、住民からは「よくわからなかった」「地域への広報が足りなかったのではないか」との意見もありました。県立大学は、世界団地博覧会への参加報告や、昨年から引き続いて研究を進める地域住民へのアンケートやヒアリング調査の状況、今後の調査予定などとともに、学生が現在鋭意作成中の明舞団地の情報小冊子「好きです。明舞」の刊行予告などがありました。どんな冊子ができるのか楽しみです。

また、3月14日には、神戸学院大学の社会リハビリテーション学科から、まちなカラボと協働したセミナー「高齢期・何に不安を感じていますか？」の開催案内がありました。学院大の参画により、福祉の面からの団地へのアプローチができれば、明舞まちなカラボの活動もより幅広いものになるのではないのでしょうか。

その他

兵庫県から来年度施策として、県営住宅の空き住戸を活用した学生シェアハウスや、空店舗を活用した若者活動支援、福祉の視点からの住宅点検事業などが発表されました。また、神戸市からは、現在神楽台の一部地域で検討が進んでいる「地区計画」に関する報告が行われました。こうしたことをきっかけに、さらに住民自身の意見を踏まえた、まちづくりが進んで行けば素晴らしいことと思います。

地区計画：都市計画法に定められている、それぞれの地区の特性にふさわしいまちづくりを誘導するため、住民の合意に基づいて策定する計画。まちづくりの全体構想や、道路、公園、広場などの配置や建築物等に関する制限などを定めることができる。

次回開催は7月頃の予定です。